

発売中
350円

この国を
『戦争国家』にして
いいのか!? ―志位和夫―

東九州新幹線の実現へ一致

県知事と
18市町村長

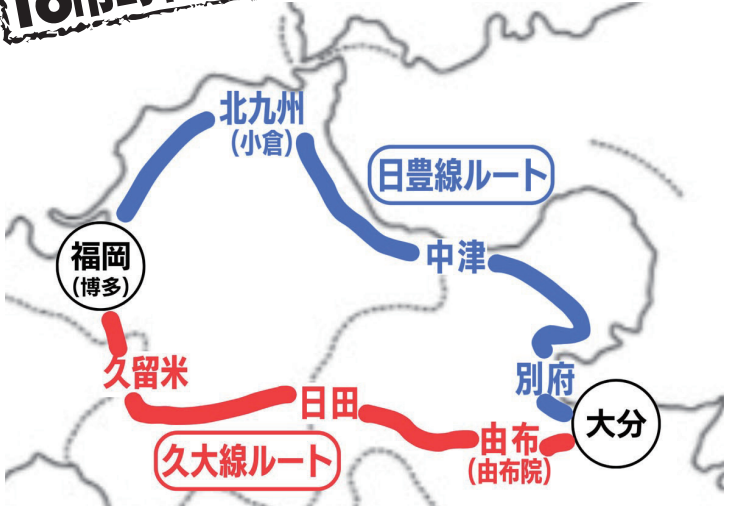
JR久大本線は沿線自治体に押しつけか!?

県知事と18市町村長は8月28日、東九州新幹線の実現に向けて取りくむことで一致。日隈市議は9月11日、東九州新幹線の久大線ルートとJR久大本線の維持について、**棕野市長に質問しました。**

棕野市長は「大分県東九州新幹線整備推進期成会の活動を通じて

これまで取りくんできた。今年度、期成会が行う調査結果で、日豊線ルートか久大線ルートの議論が活発化していく。今後、市民の意見を聞く機会を設けたい」と答えました。

は通勤、通学、観光面でも重要な路線。沿線市町村や大分県、福岡県とも連携し、JR九州による維持を強く働きかけたい」と答えました。



▲大分県東九州新幹線整備推進期成会が今年度、費用対効果を調査している2つの東九州新幹線ルート。

日隈市議は「東九州新幹線のルートが久大線で進んだ場合、JR久大本線の維持は沿線自治体に押しつけられるのではないかと質問。市長は「平成16年に開業した九州新幹線は、八代駅から川内駅の間が、沿線自治体などが出資する第三セクターに経営移管された。しかし、JR久大本線

日隈市議は「東九州新幹線の建設の負担割合がどうなるか」と質問。市長は「先日の会議は議題も多く、細かな議論はなかった。久大線ルートと日豊線ルートで、私と中津市長が指名されて発言した」と説明しました。日隈市議は「とにかく夢をもって実現させるということまで一致した。財源の話は抜きということか」と追及。市長は「私から先日の会議で、在来線の維持と地元負担は課題があると発言した。詳細な議論は、これからだと考えている」と答えました。

高齢者おでかけ支援を質問

運転免許
自主返納

市長「モデル地域で実態つかみ、仕組みつくる」

棕野市長は、5つの公約のひとつに高齢者の運転免許返納後の移動支援をあげています。日隈市議は9月議会、「高齢者おでかけ支援を、どのように取りくむのか」と質問しました。

市長は、高齢者から「駅やバス停まで歩いて行けない」「乗合デマンドタクシーの前日予約が大変だ」「公共交通だけでは目的地ま

で行けない」などの声を聞いていると話し、「いくつかのモデル地域で実態をつかみ、地域住民と相談しながら仕組みをつくりたい」と答えました。

日隈市議は「日田市地域公共交通計画では、バス停や鉄道駅から半径1・5km以内は、おでかけ支援の対象になっていない」と指摘。「運転免許返納者のおでかけ支援を地域ごとに取りくむ方向に変えていくのか」と質問しました。市長は「基準に該当しない地域であっても、駅やバス停まで行くこ

とが困難な方、自宅から目的地で高齢者が行ける仕組みを考えていきたい」と答えました。

日隈市議は「三芳地区で自家用有償運送をやれないか話題になったが、やっぱり難しいとなった。市長は、地区ごとの取りくみをどのように進めようとしているのか」と質問。市長は「私がまちづくりに関わった国東市では、住民の支え合いで高齢者をカフェまで送迎する。そこで、まとまって買物に行く仕組みにしていた。一番の心配は、事故が起きたときにどうするか。何かあったときの責任を自治会にするのか、団体をつくるのかあるが、仕組みをつくる責任をとる」と説明しました。



▲棕野美智子市長に質問する日隈市議